

平成28年度 学校自己評価システムシート (熊谷市立大幡中学校)

目指す学校像	高い志を持ち、夢に向かって本気で取り組む生徒 ○進んで学ぶ生徒 ○思いやりのある生徒 ○たくましい生徒
--------	--

重点目標	1 基礎的・基本的な力を確かに身に付け、主体的に学習に取り組む生徒 2 互いに認め合い、励まし合い、元気なあいさつをかわせる生徒 3 高い目標を持って、何事にも本気で取り組み、汗をかく生徒
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	事務局(教職員)	2名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 2 6 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 2 6 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○学び合い学習を深化・充実させるための研修会の実施 ○「定期テスト前の計画表の作成と実施内容の記録」を継続と、ノートの質の向上 ○低位の生徒が自信を付け、全員が声を出す英語科ラウンド制の実践	1 指導方法の工夫 2 家庭学習の定着 3 英語科ラウンド制の定着	1 生徒の『学力向上』を図るため、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実践する。 2 家庭学習を2時間以上実施する。 テレビ・パソコン等の時間を減らす。 読書時間を増やす。 3 英語科のラウンド制を充実させる。	1 指導力向上のため、公開授業各教師2回実施する。 2 家庭学習を2時間以上実施した生徒を50%以上にする。 平日にテレビを見る時間が1時間以内の生徒を45%以上にする。 読書時間の増えた生徒を30%以上にする。 3 ラウンド制を1学年で導入する。	1 公開授業は全職員が2回以上実施した。 2 HQCシートより家庭学習を2時間以上した生徒は80.0%であった。 3 減運動アンケートより平日にテレビを見る時間が1時間以内の生徒が39%であった。 生徒アンケートより、読書時間が増えた生徒は58.7%であった。 3 ラウンド制は完全実施できた。	B	課題 1 指導方法の工夫 2 家庭学習の定着 3 ラウンド制の実践 改善策 ○学び合いを通し下位の学力の生徒があきらめずに学習するようにしていきたい。 ○家庭と連携し、ゲームやスマホに時間を減らしたり、学年委員会の取り組みにより家庭学習を定着させていきたい。 ○ラウンド制を実施しながら、文法や書くことの指導ができるよう計画的に進めたい。
2	○大幡中学校生の地域への見える化 ○生徒会を積極的に活用した、人間関係づくりの充実 ○相手を思いやることのできる生徒の育成	1 地域活動への貢献 2 コミュニケーション能力の向上 3 人間関係の向上	1 朝のボランティア清掃を実践する。 大幡校区連絡会活動への積極的な参加をする。 2 「朝のあいさつ運動」を実践する。 3 人権週間を実施する。 ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進する。	1 各部活動交代で、毎日行うことができるようにする。 植え付け、収穫祭に年2回参加する。 2 生活委員、生徒会による朝のあいさつ運動を月1回実施する。 3 人権週間を年2回実施する。 大幡小中特別支援学級の交流会を年2回以上実施する。	1 清掃活動は毎日実施することができた。 ジャガイモの植え付け・サツマイモ・ジャガイモの収穫と3回実施できた。 2 あいさつ運動も毎月実施できた。 3 人権週間を2回実施し、人権作文・人権標語を作成することができた。 特別支援教育の交流会は小学校と2回実施できた。	A	課題 1 学年組織の向上 2 基本的な生活習慣の定着 3 総合的な学習の時間の精選 改善策 ○リーダーの育成と、リーダー以外の生徒の意識化を図り、組織として成長できるようにする。 ○日々の生活の中であいさつや返事ができるよう、生徒会を活用しながら指導を継続する。 ○指導計画を見直し、生徒が意図的に活動していくことができるようにする。
3	○新体力テストにおける目的の明確化 ○家庭での生活習慣の向上のための、家庭への支援 ○早い時期での避難訓練実施	1 体力向上の推進 2 HQCシートの活用 3 小中合同避難訓練の向上	1 新体力テストを年に2回実践する。 2 健康教育の取組(HQCシート)の取組を年2回実践し、個別の指導に生かす。 3 防災教育を推進する。	1 総合評価でC判定以上の生徒を85%以上にする。 2 朝ご飯をしっかりと食べる生徒を95%以上にする。 食育の推進(栄養教諭による指導)年3回 3 小中合同避難訓練で小中学校間の連携を向上させる。	1 新体力テストC判定以上の生徒は81.5%であった。 2 生徒アンケートの結果から、朝ご飯を食べる生徒は95.2%であった。 栄養教諭の授業は各クラス年間5回行った。 3 避難訓練は4回行い、小学校との連携も向上した。	A	課題 1 家庭での生活習慣の向上 2 避難訓練の工夫と改善 改善策 ○肥満傾向の生徒が多いため、HQCシートを活用した指導を継続し、生活習慣を向上させたい。 ○生徒に告知しない避難訓練を行い、日頃の訓練の成果を定着させたい。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年 3月 3日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の評価で、「学習内容の理解」や「考え表現すること」ができていないことが80%を超えており、保護者の評価で、「確かな学力をつけている」という項目が80%を超えている。学校が取り組んできた成果が現れていると感じる。 ・携帯電話やPCの時間が減らないのは多くの学校の抱える課題であるが、さらなる工夫が必要である。 ・学校評価で、生徒と保護者や先生の結果に差があるため、アンケートの工夫を考えていきたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の生徒と先生の関係が良く、「先生が生徒を支援」していることがよくわかり、学校の体制が整っていることがわかる。 ・学校行事や部活動などで、生徒たちが認め合い励まし合っている様子もできていた。 ・校内での元気なあいさつに加え、校外においても気持ちよいあいさつができていた。 ・校区連絡会の活動に多くの生徒が参加し、植え付けや草取りそして収穫と体験していることが成果につながっていると感じた。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の評価で、清掃に関するもの、学校行事や部活動に関するものが90%以上になっており、保護者の評価も90%近い数値となっている。重点目標が達成できていると感じる。 ・昨年に比べほとんどの項目が高くなっている。大人が手本となって行動することが重要であると感じた。 ・学校行事への参加態度を見ると、目標を持ちそれに向かって取り組んでいる姿を感じることができた。 	